

おくの けいたろう

奥野 圭太郎

文化学部 講師
 修士(社会学) /
 名古屋大学農学部
 関西大学大学院社会学研究科

☐ ホームページ URL

<https://www.linkedin.com/in/okunokeitaro>

主な研究業績

(主要論文)

- 2019年「地方創生のための観光客の趣味趣向に沿うAI観光リコメンドシステムの提唱」(単著・ITSJAPAN)
- 2017年「人工知能と自動運転技術を用いた新しい地方創生とものがたり観光」(単著・ものがたり観光行動学会誌第7号)
- 2015年「ふるさと納税政策によるものがたり観光促進」(単著・ものがたり観光行動学会誌第5号)
- 2013年「The Japanese OTAKUs' one month activity just after the 3.11 Earthquake」(単著・SITIS2013)

(著書)

- 2012年「旅行業界におけるクレーマーの意義に関する社会学的一考察」(単著・旅行新聞新社・2012年)

研究テーマ Research theme

京都における伝統文化資源と新技術とサブカルチャーを融合させた近未来型観光

概要 Overview

今日、観光客が観光地に求めるものは、好奇心の多様化、趣味の多様化により、十人十色となった。そのため、観光地、あるいは、観光で地域活性化、地方創生を図ろうとする自治体は、さまざまな方法での観光客へのアピール、アプローチに加えて、多様な観光プログラムの提供が必須となった。

当研究室では、その社会的ニーズに答えるべく、様々な観光のあり方、とりわけ、伝統文化と新技術、そしてサブカルチャーの融合を中心に、社会学による人間行動の理解に基づいて近未来予測をしつつ、近未来の観光のあり方について、フィールド調査をベースに日々予測研究を行っている。過去には様々な工業系企業と連携し、また、いくつかの地方自治体と連携し、近未来型観光の姿を提唱してきた。

とくにこの2年間では、主に京都市の支援の下、京都市嵐山歴史地区のいくつかの地元企業などと連携し、オーバーツーリズム現象を解消しつつ、ハイエンド観光に移行する取り組みに携わってきた。

ウィズコロナ、アフターコロナの時代を迎えて、観光には大きな変革が起きると、当研究室では予測している。当面の課題は、このウィズコロナ、アフターコロナの時代に観光産業はどのように変革すべきなのか、そして、それを一過性のものとせず、危機がチャンスになるように新たな方式を定着させるためにはどのようにしていくのが適切か、かつての疫病禍の歴史による社会変革と、現代の社会的要請の両局面から分析することである。



ITS JAPAN ポスター発表



LIS 国際会議表彰



ものがたり観光行動学会掲載論文

応用分野 Application areas

もともと、伝統文化とサブカルチャーなどの新文化の「むすびわざ」、工学など理系の学問や産業と社会学(文系学問)の「むすびわざ」で観光学研究を進めてきた立場であり、その「むすびわざ」をもとに近未来予測研究を行っている。

新たなライフスタイルの変化や、新しい観光サービスの提供など、地方自治体や企業、シンクタンクなどへのアイデアの提供、共同研究の指導や参画、調査受託などが可能であり、社内セミナーの講師・講演、共同研究なども積極的に受け入れている。

共同研究等へのニーズ Need for joint research

過去には日産自動車総合研究所、ヤマハ発動機株式会社、岸未来研究所などと、文系の立場から共同研究等を行ってきた。

現在では、地方自治体や公的研究機関、民間企業やシンクタンクなどと、過去の歴史と社会的見地からの未来社会予測研究に基づいた新しい人間文化と新たな人間行動の創出について、連携研究などを行いたいと考えている。

特に現在は、ウィズコロナ、アフターコロナ時代での観光産業並びに観光学のあり方に取り組んでおり、新しい観光文化の創出を希望している地方自治体などと是非とも連携を行いたい。